

## 資本財輸出大国としての中国の台頭

永田 雅啓 Masahiro Nagata

埼玉大学教養学部 教授

(財) 国際貿易投資研究所 客員研究員

2004年、中国は日本の輸出額を抜いて世界第3位の輸出国となった。中国経済の成長とともにアジア太平洋地域の貿易構造も、量的、質的に近年大きく変化してきている。中国貿易拡大の要因と影響に関して、機械貿易を中心に分析してみたい。

### 1. 急増する中国の資本財輸出

従来、中国は安価で豊富な労働力を生かした労働集約的な財の大量輸出というイメージが強かった。これによって、日本をはじめとした先進諸国に対して繊維製品や軽工業品、農産物等の輸出を急増させるといった姿である。実際、中国がWTO加盟する際もそうした懸念が持たれて対中国特別セーフ・ガードが設定されたし、現在、議論となっている人民元改革の問題も、その背景に

は中国からの繊維製品等の輸入急増に対するアメリカの強い懸念が存在する。実際、繊維製品ならびに耐久消費財（乗用車を除く）の輸出額を国際比較した表 1.2 にもこれら品目の輸出における中国の圧倒的な地位が示されている。すなわち、繊維製品では04年の中国・香港（大陸・香港間貿易は除く。以下同）の輸出金額は約800億ドルと韓国の84億ドルや台湾の60億ドルを大きく引き離して世界一の輸出国である。また、家庭電化製品などの耐久消費財は、かつては日本の主要輸出品目

だったが、04年には中国・香港の輸出額513億ドルに対して日本のそれは173億ドルと、少なくとも金額面で見ると、中国の伸長は著しい。

しかし、これらの事実にもかかわらず、中国の輸出入を急増させている主な品目は、こうした耐久消費財や労働集約的な軽工業品ではないのである。図1は、中国の輸出入の品目構成に関する95、99、04年の変化を見たものである。中国の輸出入額全体が拡大しているのいずれの品目も絶対額では拡大しているが、繊維製品や耐久消費財等の消費財の輸出比率は、それぞれ15%、7%前後でそれほど変化していない。これに対して、資本財の輸出比率は急増している。この結果、04年の中国の資本財輸出金額は繊維製品の約3倍、耐久消費財輸出の約5倍と、これらの品目を遥かにしのぐ輸出規模に達している。また、輸入面においても、部品を含む資本財の輸入比率は50%にまで増大している。このように、近年、中国の輸出入を急増させている主な品目は、実は資本財なのである。特に輸出面においては、図にも示されるように、中国の

資本財輸出比率は95年の16.2%から僅か10年足らずで04年には40.8%の水準に達しているが、この水準は、アメリカやEU15の水準とほぼ同等であり、他のアジアの中進諸国と同様のレベルに達したことを意味している。一般に途上国が経済発展する際、当初は農産物や天然資源を輸出し、経済発展に従い繊維製品などの軽工業品の輸出が増大する。さらに鉄等の金属、化学、機械工業など重化学工業へ主力輸出品が移行していく。戦後の日本の経験では、機械工業の中でも家庭電気製品、自動車などの耐久消費財輸出がまず拡大し、次いで資本財へ主力輸出品が移行していった。しかし、現在のアジア諸国は耐久消費財から資本財へという段階を経ずに、資本財自体の輸出入が急拡大していくケースも多い。これは、多国籍企業による直接投資と国際的な工程間分業の結果であろうが、中国の場合は、最も短時間で、そして最も大規模にそうした急速な変化が生じていると考えられる。

表1 繊維製品の国別輸出金額  
(単位:100 万ドル)

国・地域	2004年
日本	2,204
アメリカ	9,594
EU15	26,634
中国・香港	80,203
韓国	8,432
台湾	6,010
シンガポール	2,086
タイ	4,050
マレーシア	1,407
フィリピン	2,218
インドネシア	4,731

注) EU15 は2003 年  
資料) 各国貿易統計

図1 中国の主要輸出入品目構成の推移

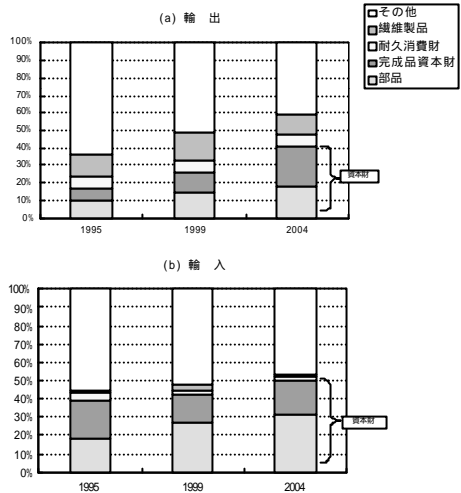


表2 耐久消費財の国別輸出金額  
(単位: 100 万ドル)

国・地域	2004年
日本	17,283
アメリカ	12,306
EU15	17,568
中国・香港	51,336
韓国	7,014
台湾	6,673
シンガポール	6,317
タイ	4,569
マレーシア	5,459
フィリピン	425
インドネシア	1,765

注1) 耐久消費財は機械類のみ。

ただし、乗用車含まず

注2) EU15 は2003 年

注3) 中国・香港は大陸と香港間の貿易  
含まず。

資料) 表1 と同

以上では、輸出入の品目構成変化を中心に見たが、品目構成変化のみならず中国の資本財輸出で着目すべきは、その絶対額の変化である(後出、表6-1,2 参照)。99年には、734 億ドルと日本の資本財輸出の1/3程度、アメリカやEU15の1/5程度に過ぎなかった中国・香港の資本財輸出は、僅か5年後の04年には、99年の3倍以上の2,448 億ドルに急増し、同年の日本の資本財輸出額の約8割、アメリカ、EU15の資本財輸出規模の6割程度にまで急拡大してきている。この勢いで輸出の伸び

が続くなら、中国の資本財輸出額が日本を超える日もそう遠くないかもしれない。この意味で、今や中国は資本財輸出大国として急速に台頭してきているのである。

## 2. 資本財貿易マトリックスによるアプローチ

さて、こうした中国における資本財貿易の急拡大は、世界の貿易構造にどのような影響をもたらしてい

るのだろうか。表 3(a)は、資本財における世界の貿易構造変化を見るために、主要な資本財貿易国である日本、アメリカ、EU15、中国・香港、NIEs、ASEAN4 の 04 年の貿易額のマトリックスを示したものである。また表 3(b)は、これらの国・地域の世界輸入の合計額を 100 とするシェア・マトリックスである。さらに表 3(c)には 99 年と 04 年とのシェア・マトリックスの変化分(差分)も示した。

表 3 資本財の貿易マトリックス

(a) 2004 年の貿易額マトリックス

(単位:100 万ドル)

輸入国 輸出国	日本	アメリカ	EU15	中国・ 香港	韓国	台湾	シンガ ポール	タイ	マレー シア	フィリ ピン	インド ネシア	合計
日本		66,707	51,009	82,008	26,170	27,394	13,751	13,361	10,454	6,016	3,564	300,433
アメリカ	27,745		94,267	28,451	15,565	12,139	15,031	3,715	12,409	5,435	1,037	215,794
EU15	15,346	85,484		52,478	11,405	7,975	12,561	4,111	7,944	2,019	2,413	201,737
中国・香港	32,964	76,626	67,902		12,110	10,053	13,637	4,597	8,990	2,351	986	230,217
韓国	9,691	23,861	22,657	45,450		8,121	5,316	2,027	3,486	1,396	535	122,539
台湾	9,735	19,891	18,237	53,981	5,457		7,493	2,251	3,927	1,735	324	123,030
シンガ ポール	3,405	11,029	12,606	13,434	3,334	2,856		1,992	5,717	1,751	731	56,854
タイ	5,792	7,151	6,513	8,397	984	1,458	3,956		2,799	604	636	38,291
マレーシア	5,024	21,506	11,941	17,764	2,169	3,176	17,283	2,912		888	324	82,986
フィリピン	5,664	5,156	6,430	12,080	1,583	2,567	3,876	1,086	2,514		65	41,021
インドネ シア	1,947	1,898	1,649	1,878	244	387	0	454	902	133		9,491
その他世界	5,375	157,446	162,523	42,021	3,459	4,468	5,109	2,776	2,577	680	679	387,110
世界	122,688	476,754	455,733	357,941	82,479	80,594	98,012	39,281	61,720	23,006	11,296	1,809,505

(b) 2004年のシェア・マトリックス

(単位: %)

輸入国 輸出国	日本	アメリカ	EU15	中国・ 香港	韓国	台湾	シンガ ポール	タイ	マレー シア	フィリ ピン	インド ネシア	合計
日本		3.69	2.82	4.53	1.45	1.51	0.76	0.74	0.58	0.33	0.20	16.60
アメリカ	1.53		5.21	1.57	0.86	0.67	0.83	0.21	0.69	0.30	0.06	11.93
EU15	0.85	4.72		2.90	0.63	0.44	0.69	0.23	0.44	0.11	0.13	11.15
中国・香港	1.82	4.23	3.75		0.67	0.56	0.75	0.25	0.50	0.13	0.05	12.72
韓国	0.54	1.32	1.25	2.51		0.45	0.29	0.11	0.19	0.08	0.03	6.77
台湾	0.54	1.10	1.01	2.98	0.30		0.41	0.12	0.22	0.10	0.02	6.80
シンガ ポール	0.19	0.61	0.70	0.74	0.18	0.16		0.11	0.32	0.10	0.04	3.14
タイ	0.32	0.40	0.36	0.46	0.05	0.08	0.22		0.15	0.03	0.04	2.12
マレーシア	0.28	1.19	0.66	0.98	0.12	0.18	0.96	0.16		0.05	0.02	4.59
フィリピン	0.31	0.28	0.36	0.67	0.09	0.14	0.21	0.06	0.14		0.00	2.27
インドネ シア	0.11	0.10	0.09	0.10	0.01	0.02	0.00	0.03	0.05	0.01		0.52
その他世界	0.30	8.70	8.98	2.32	0.19	0.25	0.28	0.15	0.14	0.04	0.04	21.39
世界	6.78	26.35	25.19	19.78	4.56	4.45	5.42	2.17	3.41	1.27	0.62	100.00

(c) シェア・マトリックスの変化(1999~2004年)

(単位: %ポイント)

輸入国 輸出国	日本	アメリカ	EU15	中国・ 香港	韓国	台湾	シンガ ポール	タイ	マレー シア	フィリ ピン	インド ネシア	合計
日本		-2.55	-1.07	1.88	0.20	-0.25	-0.41	0.16	-0.15	-0.09	0.10	-2.19
アメリカ	-1.23		-3.47	-0.03	-0.44	-0.32	-0.35	-0.14	-0.13	-0.13	-0.04	-6.27
EU15	-0.15	-1.78		0.78	0.11	-0.23	-0.01	-0.03	-0.02	-0.03	-0.03	-1.39
中国・香港	1.01	2.16	2.13		0.42	0.29	0.29	0.12	0.34	0.04	0.04	6.84
韓国	0.01	-0.27	0.34	1.79		0.03	0.03	0.05	-0.03	-0.09	0.01	1.88
台湾	-0.10	-0.81	-0.19	1.76	0.12		0.12	0.03	0.02	0.04	0.00	0.99
シンガ ポール	-0.12	-0.72	-0.19	0.26	0.03	-0.05		-0.05	-0.21	0.00	-0.02	-1.06
タイ	0.03	-0.14	-0.02	0.29	0.01	-0.04	-0.11		0.04	-0.01	0.03	0.08
マレーシア	-0.13	-0.18	-0.08	0.61	-0.00	-0.05	-0.04	0.08		0.00	0.01	0.22
フィリピン	0.03	-0.45	-0.05	0.52	0.01	-0.04	-0.02	-0.00	0.01		0.00	0.01
インドネ シア	0.01	-0.04	0.01	0.07	0.00	0.00	0.00	0.01	0.01	-0.00		0.07
その他世界	0.02	-2.70	1.75	1.80	-0.05	-0.01	-0.02	0.05	-0.01	0.01	-0.00	0.83
世界	-0.62	-7.49	-0.84	9.73	0.42	-0.67	-0.53	0.26	-0.13	-0.25	0.12	

注1) EU15は2003年

注2) 中国・香港は大陸と香港間の貿易を含まず。

資料) 各国輸入統計により作成。

表3(c)から、この5年間で資本財貿易の変化を見ると、二つの大きな動きを読み取ることができる。第1は中国の輸出入比率の急拡大であり、輸出で6.8%ポイント、輸入で9.7%ポイントそれぞれ増大している。内訳を見ると、中国からアメリカ、EU15、日本等への輸出が増大しているのと同時に、中国の日本、韓国、台湾からの輸入が増大している。第2にこれと対照的なのがアメリカであり、輸出で6.3%ポイント、輸入で7.5%ポイントそれぞれ減少している。内訳を見るとほとんど全ての国・地域に対して輸出入が減少しているが、特に日本、EU15に対して輸出入減が大きく、次いで韓国、台湾、シンガポールへの輸出入が減少している。こうした中で、アメリカの対中輸入だけが顕著に増大している。こうした状況をどのように考えるべきか。

表4.5は、資本財を完成品資本財と部品とに分けて表3と同様の手法で99~04年の変化を見たものである。完成品資本財で顕著なのは中国からの対日本、アメリカ、EU15輸出比率の急増である。日本も、アメ

リカからの完成品資本財の輸入が相対的に減少し、代わって中国からの輸入が相対的に増大している。一方、部品において顕著なのは、中国における日本、韓国、台湾、マレーシア、フィリピンなど東アジア諸国からの輸入急増であり、結果として中国の部品輸入比率は同期間に対世界で11.5%ポイントも増大している。以上の傾向は次のようにまとめることができるだろう。

中国の資本財輸出入の急増に伴い、日本・アメリカ・EU15・東アジアのいずれも中国との資本財輸出入が拡大している。

資本財を部品と完成品資本財に分けて見ると、中国では東アジアから部品輸入が急増し、対先進国、特に対米、対EU15で完成品資本財輸出が急増している。

アメリカの資本財輸入は、完成品資本財、部品を問わず、相対的に顕著に減少している。

さらに、

日、米、EU15の3極間の資本財貿易は相対的に低下しており、特に日本、アメリカ、アメリカ EU15の資本財貿易が相対的に低下している。

表4 完成品資本財のシェア・マトリックスの変化(1999~2004年)

(単位: %ポイント)

輸入国 輸出国	日本	アメリカ	EU15	中国・ 香港	韓国	台湾	シンガ ポール	タイ	マレー シア	フィリ ピン	インド ネシア	合計
日本		-3.11	-1.68	1.80	0.59	-0.40	-0.28	0.20	0.12	-0.05	0.07	-2.75
アメリカ	-1.58		-4.37	-0.09	-0.18	-0.42	-0.31	-0.20	-0.17	-0.03	-0.02	-7.38
EU15	-0.44	-1.77		0.73	0.10	-0.40	0.03	-0.08	0.01	-0.05	0.01	-1.87
中国・香港	1.48	4.01	3.69		0.44	0.37	0.37	0.19	0.25	0.01	0.05	10.88
韓国	-0.23	0.21	0.93	1.89		-0.26	-0.01	0.11	-0.01	-0.01	0.00	2.63
台湾	-0.34	-0.88	-0.08	1.38	0.05		-0.04	0.04	-0.01	-0.01	0.00	0.12
シンガ ポール	-0.24	-1.22	-0.37	0.13	-0.07	-0.07		0.02	-0.02	-0.02	-0.02	-1.88
タイ	-0.06	-0.22	-0.02	0.26	0.01	-0.07	-0.08		0.07	0.00	0.01	-0.09
マレーシア	-0.25	0.40	0.04	0.03	0.06	-0.03	0.02	0.04		0.00	0.02	0.33
フィリピン	0.01	-0.25	-0.13	0.14	0.01	-0.10	0.00	0.02	0.01		0.00	-0.28
インドネ シア	0.01	-0.07	0.03	0.08	0.01	-0.01	0.00	-0.00	0.02	-0.00		0.07
その他世界	-0.04	-3.12	2.31	1.14	0.04	-0.08	-0.06	0.04	0.01	-0.01	-0.01	0.23
世界	-1.67	-6.04	0.36	7.49	1.06	-1.47	-0.36	0.37	0.30	-0.16	0.12	

注1) EU15は2003年

注2) 中国・香港は大陸と香港間の貿易を含まず。

資料) 各国輸入統計により作成。

表5 部品のシェア・マトリックスの変化(1999~2004年)

(単位: %ポイント)

輸入国 輸出国	日本	アメリカ	EU15	中国・ 香港	韓国	台湾	シンガ ポール	タイ	マレー シア	フィリ ピン	インド ネシア	合計
日本		-2.16	-0.67	1.99	-0.08	-0.17	-0.49	0.13	-0.33	-0.10	0.12	-1.75
アメリカ	-0.99		-2.87	0.01	-0.61	-0.25	-0.37	-0.10	-0.07	-0.18	-0.05	-5.49
EU15	0.04	-1.81		0.79	0.12	-0.11	-0.03	-0.00	-0.02	-0.02	-0.05	-1.10
中国・香港	0.67	0.76	0.95		0.41	0.25	0.23	0.08	0.40	0.07	0.04	3.86
韓国	0.20	-0.62	-0.11	1.73		0.24	0.06	0.01	-0.04	-0.15	0.01	1.33
台湾	0.07	-0.76	-0.28	2.07	0.18		0.25	0.03	0.05	0.07	0.00	1.67
シンガ ポール	-0.03	-0.38	-0.07	0.37	0.11	-0.04		-0.09	-0.33	0.02	-0.01	-0.47
タイ	0.10	-0.10	-0.03	0.32	0.01	-0.02	-0.12		0.03	-0.01	0.05	0.20
マレーシア	-0.05	-0.61	-0.17	1.04	-0.05	-0.06	-0.05	0.11		0.01	0.01	0.19
フィリピン	0.04	-0.58	0.01	0.79	0.02	0.01	-0.03	-0.01	0.01		0.00	0.26
インドネ シア	0.01	-0.02	-0.01	0.06	0.00	0.01	0.00	0.01	0.00	-0.00		0.06
その他世界	0.06	-2.45	1.33	2.29	-0.11	0.04	0.02	0.05	-0.02	0.03	0.00	1.24
世界	0.11	-8.75	-1.92	11.48	-0.00	-0.12	-0.54	0.22	-0.33	-0.26	0.12	

注1) EU15は2003年

注2) 中国・香港は大陸と香港間の貿易を含まず。

資料) 各国輸入統計により作成。

短期間で資本財貿易におけるこうした急激な変化が生じているのは、主として日米欧の機械産業が中国に生産拠点を移している結果と考えられる。すなわち、それまで先進国間相互で部品をやり取りし、完成品資本財にして相互に輸出し合っていたものを、生産拠点を中国に移して中国に部品等を輸出し、同時に完成品資本財を中国が先進国から輸出する姿に変わってきたと考えられる。すなわち、一旦中国を通して先進国同士が資本財貿易をしている可能性が高い。例えば日本もそれまで直接アメリカに輸出していた姿から、中国に部品類を輸出することで中国を迂回する形で資本財を対米輸出していると見ることもできる。また、アメリカ企業が生産拠点を中国に移したことで、日本からアメリカへの部品輸出が日本から中国への部品輸出に代替され、同時にアメリカから日本、EU15への完成品資本財輸出が中国からの日本、EU15(ならびにアメリカ自身)への完成品資本財輸出によって代替されたと考えることができる。

### 3. 各国の資本財貿易収支によるアプローチ

以上の傾向は、資本財貿易における国・地域別貿易収支を分析することでも一層明確になる。表 6-1, 2 は、各国・地域の資本財における貿易収支を見たものである。この表で明らかのように、日本は資本財では部品、完成品資本財を問わず圧倒的な対世界貿易黒字を持ち、黒字額は 04 年には 2,000 億ドル近くに達している。同時にアメリカ、EU15、東アジアの諸国のほとんどは、部品、完成品資本財ともに日本に対しては大幅な赤字である(すなわち、日本はほとんどすべての国に対して資本財貿易では輸出超過である)。この傾向は 99 年、04 年でほとんど変わらず、むしろこの期間に資本財における日本の対世界貿易黒字は 400 億ドルも増大するなど、資本財における日本の競争力は揺るぎないものとなっている。これに対して中国は、資本財の貿易収支では対アメリカでは大きな黒字を持っているものの、日本や主要なアジア諸国に対して大幅な赤字(表 6 では日本やア



ジア諸国の対中国黒字として示される)である。この結果、中国の資本財貿易収支は、04年には対世界で1,100億ドルを超える大幅な赤字となっているのである。また、99年から04年の変化を見ると、資本財における中国の対米黒字が87億ドルから513億ドルに急増している一方、同時期の日本、韓国、台湾の対中国貿易黒字も、それぞれ300億ドル前後と急増している。同様のことは規模の差はあっても他の東アジア諸国についても言え、資本財貿易における日本と東アジア諸国とを合わせた対中国黒字は、この5年間で1,130億ドルも増加している。ただし、この1,130億ドルの増加のうち、完成品資本財による黒字幅の拡大が325億ドル、部品によるものが805億ドルであり、日本や東アジアからの対中輸出の急拡大は主として部品によって生じていることが分かる。一方、中国の対米黒字が増大しているのは主として完成品資本財

(359億ドル増)であり、部品における対米黒字の拡大幅(66億ドル増)よりはるかに大きい。一言で言えば、中国は日本を含む東アジア諸国からの部品輸入を急拡大させるとともに、アメリカに対しては完成品資本財の輸出を急増させているとする前項の見方を裏付けるものになっている。

表6には、日本ならびに中国を含む東アジア諸国全体の対世界貿易黒字も示してある。興味深いのは、99年も04年も東アジア全体の資本財貿易の対世界黒字は約1,650億ドルでほとんど変化していないが、その内訳を見ると、同期間に部品の貿易収支の黒字が大きく減少し、代わって完成品資本財貿易の黒字が拡大している点である。これも、日米の企業が生産拠点を中国に移した結果として、東アジア域外に対する部品輸出が相対的に減少し、逆に域外に対する完成品輸出が相対的に増大したことを示唆している。

表 6 - 1 各国の資本財貿易 (1999 年)

(a) 資本財全体 (単位:100 万ドル)

	輸出	輸入	貿易収支	対国		
				対中国	対日本	対米国
日本	236,981	83,710	153,271	20,665		43,617
米国	374,628	382,552	-7,924	-2,561	-38,549	
EU15	331,567	294,234	37,333	7,143	-31,407	-17,005
中国・香港	73,424	113,585	-40,161		-14,319	8,738
韓国	65,835	46,799	19,036	4,628	-7,400	3,481
台湾	66,205	57,903	8,302	9,740	-10,675	9,323
シンガポール	74,566	67,227	7,339	433	-7,688	3,427
タイ	22,178	21,549	629	631	-3,360	2,864
マレーシア	47,025	39,974	7,051	2,862	-2,294	8,220
フィリピン	27,138	17,178	9,960	352	-2,922	2,837
インドネシア	4,344	5,727	-1,383	-120	-1,332	1,066
日本・東アジア計	617,696	453,652	164,044			

(b) 完成品資本財 (単位:100 万ドル)

	輸出	輸入	貿易収支	対国		
				対中国	対日本	対米国
日本	102,861	37,575	65,286	6,037		18,943
米国	150,825	172,657	-21,832	-2,953	-15,046	
EU15	159,666	137,199	22,467	2,484	-16,314	-11,099
中国・香港	30,391	38,624	-8,233		-4,246	5,027
韓国	29,323	14,100	15,223	1,050	-2,340	2,784
台湾	22,312	27,063	-4,750	2,389	-5,719	3,387
シンガポール	26,610	17,145	9,464	386	-1,613	5,271
タイ	5,694	5,740	-47	152	252	2,817
マレーシア	11,516	6,474	5,042	1,085	1,018	4,621
フィリピン	4,549	2,260	2,290	262	-287	1,458
インドネシア	1,085	2,510	-1,426	44	-82	766
日本・東アジア計	234,340	151,490	82,850			

(c) 部品 (単位:100 万ドル)

	輸出	輸入	貿易収支	対国		
				対中国	対日本	対米国
日本	134,120	46,135	87,985	14,628		24,674
米国	223,803	209,895	13,908	392	-23,504	
EU15	171,901	157,035	14,866	4,659	-15,093	-5,907
中国・香港	43,034	74,961	-31,928		-10,072	3,711
韓国	36,512	32,699	3,813	3,578	-5,060	697
台湾	43,893	30,841	13,052	7,351	-4,956	5,935
シンガポール	47,956	50,082	-2,126	46	-6,075	-1,844
タイ	16,484	15,808	676	479	-3,612	47
マレーシア	35,508	33,500	2,009	1,778	-3,312	3,598
フィリピン	22,589	14,919	7,670	90	-2,634	1,379
インドネシア	3,259	3,217	43	-164	-1,249	300
日本・東アジア計	383,355	302,162	81,193			

注) 資料) は、表2 と同。

表 6-2 各国の資本財貿易(2004年)

(a) 資本財全体 (単位:100万ドル)

	輸出	輸入	貿易収支	対国		
				対中国	対日本	対米国
日本	314,622	122,688	191,934	51,155		41,973
米国	400,724	476,754	-76,030	-35,799	-36,755	
EU15	443,905	363,952	79,953	-7,175	-31,787	1,232
<b>中国・香港</b>	<b>244,822</b>	<b>357,941</b>	<b>-113,120</b>		<b>-31,578</b>	<b>51,288</b>
韓国	131,636	82,479	49,157	32,152	-14,249	9,694
台湾	98,332	80,594	17,738	42,716	-15,852	6,700
シンガポール	110,356	98,012	12,343	1,458	-7,968	-3,148
タイ	38,510	39,281	-771	4,268	-6,479	3,467
マレーシア	64,676	61,720	2,956	11,871	-2,350	12,474
フィリピン	30,327	23,006	7,321	8,855	-721	-329
インドネシア	9,505	11,296	-1,791	-265	-3,479	1,102
<b>日本・東アジア計</b>	<b>1,042,786</b>	<b>877,017</b>	<b>165,768</b>			

(b) 完成品資本財 (単位:100万ドル)

	輸出	輸入	貿易収支	対国		
				対中国	対日本	対米国
日本	132,187	49,808	82,379	13,752		14,984
米国	160,562	241,542	-80,981	-28,462	-12,530	
EU15	214,350	175,959	38,392	-13,764	-14,519	983
<b>中国・香港</b>	<b>128,722</b>	<b>122,068</b>	<b>6,654</b>		<b>-6,764</b>	<b>40,939</b>
韓国	66,167	31,701	34,466	13,696	-7,960	8,677
台湾	36,246	33,858	2,388	12,770	-10,220	2,309
シンガポール	30,406	25,819	4,587	-480	-2,856	813
タイ	13,622	12,440	1,182	1,489	-1,467	3,826
マレーシア	22,553	13,073	9,480	1,199	-266	11,230
フィリピン	7,554	2,528	5,026	1,287	474	899
インドネシア	3,269	5,099	-1,830	249	-604	685
<b>日本・東アジア計</b>	<b>440,727</b>	<b>296,394</b>	<b>144,332</b>			

(c) 部品 (単位:100万ドル)

	輸出	輸入	貿易収支	対国		
				対中国	対日本	対米国
日本	182,435	72,880	109,555	37,403		26,990
米国	240,163	235,212	4,951	-7,338	-24,225	
EU15	229,555	187,993	41,562	6,589	-17,268	249
<b>中国・香港</b>	<b>116,099</b>	<b>235,873</b>	<b>-119,774</b>		<b>-24,814</b>	<b>10,349</b>
韓国	65,469	50,778	14,691	18,456	-6,289	1,017
台湾	62,085	46,736	15,350	29,946	-5,632	4,392
シンガポール	79,949	72,193	7,756	1,938	-5,112	-3,960
タイ	24,888	26,841	-1,953	2,778	-5,012	-359
マレーシア	42,123	48,646	-6,523	10,672	-2,084	1,243
フィリピン	22,773	20,478	2,295	7,568	-1,194	-1,228
インドネシア	6,236	6,197	39	-514	-2,875	417
<b>日本・東アジア計</b>	<b>602,059</b>	<b>580,623</b>	<b>21,436</b>			

注)、資料)は、表2と同。

以上のように、近年の中国の資本財輸出入の急拡大は、日本・東アジア諸国 中国 アメリカ・EU という一種の仲介機能と見ることもできる。資本財貿易における中国の対米黒字の拡大は、日本や東アジアに対する資本財貿易における中国の大幅な赤字と対になった現象なのである。なお、東アジア諸国が資本財貿易で大幅な対中国黒字を持つようになった一つの理由は、実質為替レートの変化にあると考えられる。すなわち、97のアジア通貨危機の結果、韓国ウォン、タイ・バーツなどのアジアの主要通貨の実質為替レートが対ドルで大幅に低下したのに対し、人民元はドルと実質的に固定されていたため、多くのアジア通貨は人民元に対しても安くなる結果になった。その結果、人民元の実質為替レートは対ドルや対円では若干低下したものの、対東アジア通貨ではむしろ高くなっている（拙稿：「人民元は安いのか」季刊国際貿易と投資 No54, 2003年 参照）。これが、資本財貿易で中国が東アジア諸国・地域に対し大幅な赤字を持つ一つの原因と考えられる。

最後に、現在問題になっている人民元改革の資本財貿易に与える影響について触れてみたい。フロート化によって人民元が上昇した場合、確かに繊維製品や耐久消費財などの価格弾力性の大きな品目における対米輸出は抑制されるかもしれない。しかし、上に示した資本財の貿易構造から見ると、人民元が上昇した場合には、日本や東アジア諸国から中国へ向けた部品類の輸出は一層容易になる。中国はこれらの部品の輸入価格を低く抑えられるのでアメリカ等に向けた完成品資本財の輸出価格を抑制することが可能だろう。すなわち、人民元が対ドルで上昇しても、中国からの資本財価格はそれほど上昇せず、中国の対米輸出数量や対米黒字もそれほど縮小しない可能性が高い。以上はアジアの中で人民元だけが上昇したケースだが、人民元高に連れて円やアジア通貨も対ドルで上昇するケースも考えられる。この場合、中国や東アジア諸国からの資本財価格もドルベースで上昇する可能性は高いが、もともと資本財は汎用的な消費財等に比較して価格弾力性が

それほど大きくないと考えられる。このため、少々の価格上昇によっても対米輸出数量が大きく低下することはないだろう。むしろ、人民元やアジア通貨の上昇によって金額ベースでは対米輸出金額が長期に亘って膨らんだままに（L字カーブ効果）なる可能性がある。したがっ

て、このケースでも中国の対米黒字は減少しないか、逆に拡大するかもしれない。いずれのケースで考えても、資本財が主要輸出入品目となってきた現在の米中貿易において、人民元の上昇によってアメリカの対中貿易赤字全体が大きく減ることは考え難いのである。

### 【参考】 最近の中国関係の調査研究報告書のご紹介

最近の中国関係の調査研究報告書の一部をご紹介します。なお、調査研究報告書の要旨は、ホームページに掲載しています。（<http://www.iti.or.jp/reports.htm>）

（問い合わせ先）事務局（TEL 03-5563-1251）

- 1) 中国東北地区の再開発に向けての課題に関する調査報告書（2005年3月）
- 2) 中国の光と影 - 中国経済の持続的発展の可能性に関する調査研究報告書（2004年3月）
- 3) 中国の成長企業 - 中国の地場企業の現状と今後の見通しに関する調査研究 - （2004年3月）
- 4) 中国の成長企業（No2） - 自動車製造地場企業の現状と今後の見通し（万向集団・吉利汽車） - （2003年6月）
- 5) 中国の成長企業 - 中国の地場企業の現状と今後の見通しに関する調査研究 - （2003年3月）
- 6) 中国のWTO加盟に伴う経済政策等の変化～構造調整問題と貿易等の対外政策～（2002年3月）
- 7) 中国の投資環境に関する国際比較に係る調査研究（2002年3月）
- 8) 中国のWTO加盟を巡る諸問題に関する調査研究（2001年3月）
- 9) 近年の兩岸情勢 - 中国・台湾経済関係の現状と課題 - （2000年3月）